

QSK

2011年
11月12日

GENKI



発行：九州障害者定期刊行物協会（QSK）

〒812-0069 福岡県福岡市東区郷口町7-7

定価100円



編集：特定非営利活動法人

北九州自立生活センター

〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借2丁目5-19

自立生活センター（事務局） / (093) 541-5000

小規模作業所GENKI / (093) 541-0130

介助事業所GENKI / (093) 541-0137

共通FAX / (093) 541-5770

E-mail: cil-kita@hyper.ocn.ne.jp

<http://ilckitakyushu.jimdo.com/>



本号の主な内容

- ◎トピクス 新しい障害者スポーツセンター
わっしょい百万夏祭り
- ◎事業 メインストリートプログラム
- ◎エッセイ 全国障害者スポーツ大会 in 山口
小川さんの体験記
- ◎その他 TOTO祭り
介助事業所GENKI

**継続・新規センター
会員を募集します**

今年もみんなで やりました

～わっしょい百万夏祭りに出店をしました～

大石 厚生

去る8月6、7日にわっしょい百万夏祭りのふれあい広場に当センターから参加しました。

それに向けて、数回にわたり実行委員会に出席しましたが、最初は3月の東日本大震災の影響で中止とも言われましたが、振興会の方から決行との連絡が入り安心しました。

当センターでは、作業所GENKIで作った作品、(ポンボンストラップやグリーングラスなど)を出店しました。ポンボンストラップは、毛糸で作った手作りストラップです。グリーングラスは、グラスに入った観葉植物にフェルトで作ったかたつむり等がのっています。かたつむりの置物は、グラスに固定するのが少し大変だったようです。またお祭りなので、涼しげでいいのですがグラスが重たいため、持って帰るのがちょっと心配と創作した人は、言っていました。

他には昨年同様ジュースやおもちゃ類なども出店しました。ジュースを冷やすための氷も私たち個々で持ち寄り、また登録ヘルパーさん方や、当センター周辺の各お店にも協力をお願いしました。センターに持参して頂いた方、出店先にも持参して頂いた方、とても感謝しています。



▲暑いけど
はりきっています



▲これらの商品
作業所で作りました

わっしょいの当日は、各担当に別れ、出店準備、氷の回収、販売、呼び込みボランティアの受付などをそれぞれ行いました。一日目は開店したすぐ後一時的に夕立ちが降り、商品が濡れてしまい大変でした。近くに、FM KITAQの特設ブースがあり、番組内で、北九州の看板娘・息子のお披露目があり、ぼくも来年は出場したいと思いました。夜はお祭り大集合という、北九州市内の4大祭りが

一斉に集り、練り歩く参加者、それを見物する人が多くいたためお店も大賑わいでした。

二日目はふれあい広場のプチステージがあり、出店している団体の紹介タイムがあり、障害児と健常児のダンスパフォーマンスなどで、にぎわっていました。

そして、通路はバレードと百万踊りがあったため、往來の人がすごく、とても動きにくかったです。花火大会は30分に渡り、3千発も北九州の夜空に打ち上げられました。僕は感動して、思わず動画をとりました。

今年は例年にくらべて暑くなかったし、無事に終わりました。



「ふれあい広場」の 出店に参加して！

田村 綾子

私が、働き始めて自立生活センターで出店するのは3年目になります。

初めてお店に立った時は緊張をして、上手くお客さんに話すことができませんでした。

でも、今年の「わっしょい百万夏まつり」では少し変わり作業所のみんなで作っている作品などをいかがですかと、お客さんに話しかけ売ることできるようになって、とても嬉しく思いました。1日目は雨と風に悩まされましたが、

2日目はお天気で良かったです。また、人ごみの中を歩くのが苦手な私は、人の手を借りないと移動することができにくく、特にわっしょいの時は人通りが多いので、初めて移動支援制度を使いガイドヘルパーを頼み、ヘルパーさんと一緒に他のお店などを見て回りました。夜は、綺麗な花火を観て楽しい時間を過ごしました。



▲ こんな風に出店しました

新障害者スポーツセンターの 状況と課題

林 芳 江

去る8月24日に新障害者スポーツセンターに関する設備と運営の説明会がありました。

最終的に主な設備は、地下は駐車場、1階は大スタジオ・小スタジオ・トレーニング室・屋内プール・医務室・応接室・赤ちゃんルーム・事務室。2階は卓球室・視覚障害者専用卓球室・会議室(3室)多目的室・相談室・美術活動室・団体連絡室・談話コーナー。3階は体育室となります。

運営の基本方針として。

ア 本市における障害者スポーツ振興の拠点として、障害のある人が安心して利用でき、健康・体力づくりから競技能力の向上まで、幅広いニーズに対応できる施設を目指すとともに、すべての市民が健康づくり等のために気軽に利用できる施設とする。

イ 障害のある人の利用ニーズに応えられるよう、障害者専用利用時間帯の設定や、体育館・多目的室等の障害者団体優先予約の仕組みを設ける。

ウ 障害のある人のニーズに応じたスポーツ教室(水泳、トレーニングなど)を実施するとともに、一般市民を対象に、プールやスタジオにおいてバラエティに富んだ魅力あるスポーツ教室を実施する。

エ 障害者スポーツセンター内において、障害者施設で作られた製品(食品、雑貨など)の販売や、飲食物の提供等を行うことにより、障害のある人の工賃増加や就労支援を図るとともに、芸術文化活動の発表の場を常時設けるなど、多様な面から障害のある人の地域における自立と社会参加を支える施設とする。



▲ 改装中

※ また、大規模災害発生時は、障害のある人を多く受け入れることのできる避難施設としての活用を図る。

文章だけでは、全容や新旧に違いを表すのが難しいのですが、幾つかのポイントや課題をもう少し書いて見ます。8月の説明会で、特に新しい話題として、福祉避難所としての機能が加えられた

ということです。これは今後の整備について注目していきたいポイントです。また、説明会で最も調整が必要とされたのは、休館日と障害者の専用とする曜日や時間についてでした。今回示された休館日は火曜日（現行は月曜日）とされ、障害者福祉会館に揃えてという案に対して、福祉会館がお休みの日にこそ利用したいという意見もかなりでました。そして開館時間が9時から21時なのに対して、専用日は木曜日の12時から21時と、日曜日の9時から12時までとされ、これにも不安の声がたくさん上げられました。市営の施設として出来るだけ多くの市民の利用が必要というところは百歩譲って理解できたとしても、障害者スポーツセンターを費用対効果のものさしで運営すると、本末転倒していくと思います。

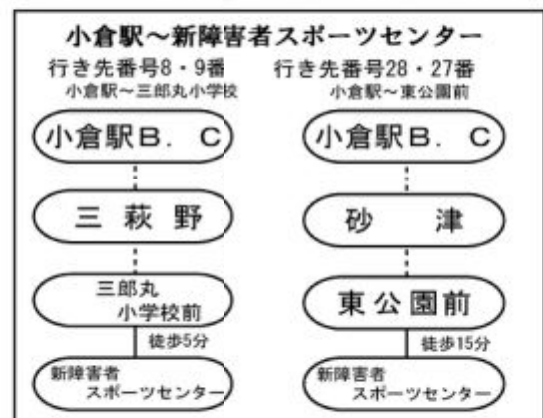
また交通アクセスの改善も課題として残っていますので、これに関する、提案を以下に記事に見ました。

● 新・障害者スポーツセンターのアクセス事情と、私たちの提案

現在、障害者スポーツセンターを自家用車以外の交通機関を使って利用する場合、現地に直行する交通機関がありません。唯一、利用できるバスは、小倉駅バスセンターからの8・9番路線ですが、他の路線からの乗り換えは不便です。また、最寄りのバス停（右図参照）で下車しても、障害者スポーツセンターまで徒歩で5分以上掛かります。さらに車椅子で乗降する際、バスからスロープを延ばそうとしてもバス停付近の条件が良くありません。加えて、三萩野は一般バス路線・高速バス路線・モノレールなどの路線網が重なっていますが、それぞれの乗換えが不便です。

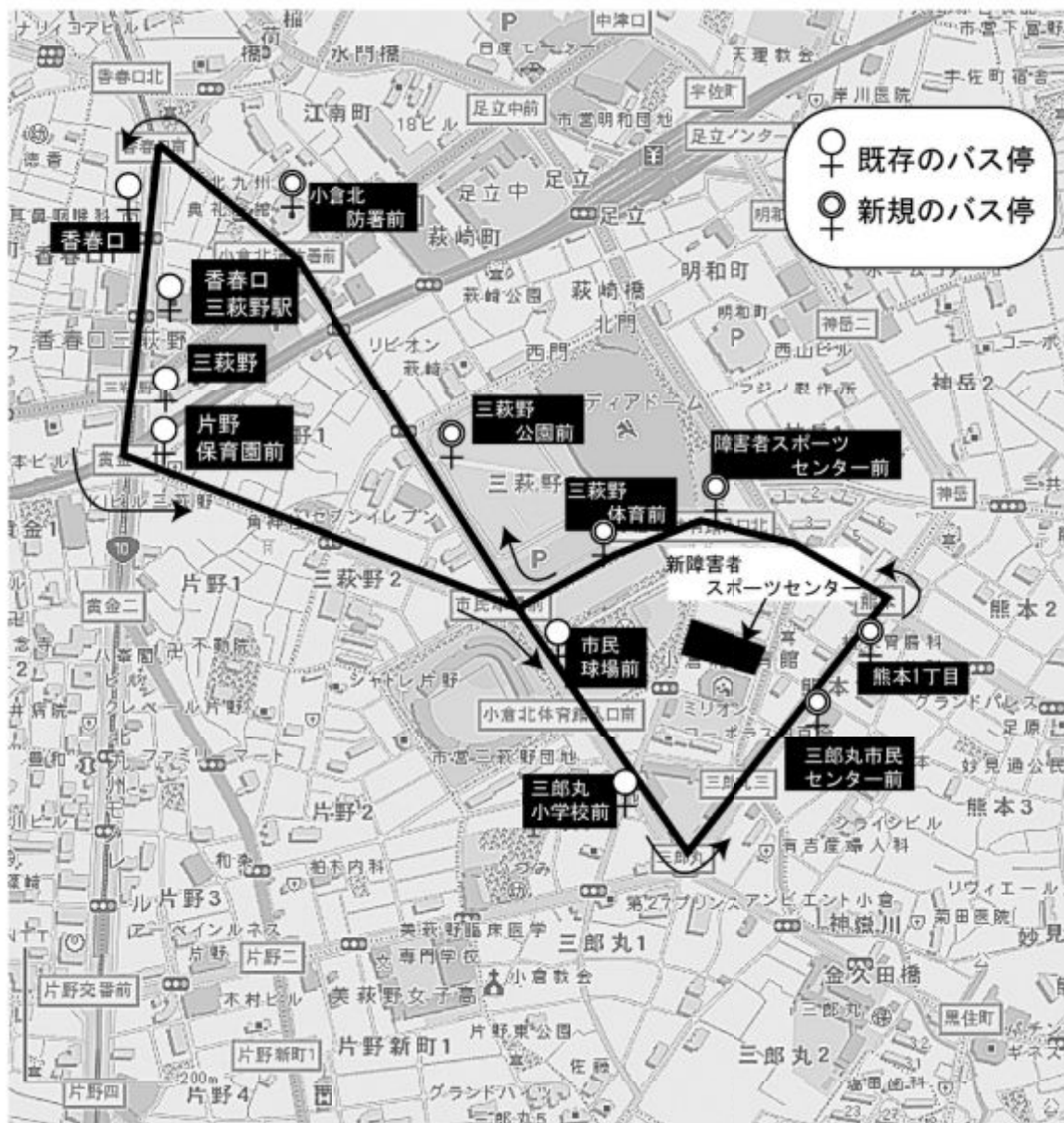
そこで、障害者スポーツセンターを近接する周遊バスの提案をいたします。このバスは、現状あるバス停を利用して、障害者スポーツセンターにアクセス可能なルートを通り、一定の区間を周遊するバスです。区間内に新設するバス停も設置することを考えています。

次のページに路線ルートおよび、新設するバス停を掲載いたしました。実現するかどうかは、わかりませんが、利用する皆様の意見も取り入れながら、市に対して提案していければと考えています。利用する皆様のご意見、ご感想などありましたら、お待ちしております。



▲現状のバス路線

周遊バス路線ルートマップ (案)



推奨ルート

香春口南直進～黄金一丁目左折～市民球場右折～
三郎丸左折～熊本町左折～市民球場右折～香春口南左折

※ この路線ルートマップは、当センターのオリジナルです。
実際のものではありません。



今年も手伝いました



～小規模作業所からTOTO祭りに参加～

大石 厚生

8月26日（金）TOTO祭りのお手伝いに行きました。「一丁目の元気」さんから2人が参加し、そこに小規模作業所GENKIから私を含め6人に他の作業所の方たちも参加しました。当日は準備中にパラパラと雨が降っていましたが、幸いなことに行なうことができました。

小規模連に加盟した、それぞれの作業所が作った作品や製品（クッキーや当作業所で作ったボンボンストラップなど）を販売のお手伝いしました。

僕は、はじめテントの外で呼び込んでいましたが、お客さんの邪魔になってしまうこともあって、あまりうろうろできずテントの中でお客さんの呼び込みなどしていました。すると、僕の家も近いせいかわり合いの人もみえられ、たくさんの人に、品物を見て購入して頂きました。ステージ上では、地域の園児たちの「トト便器の歌」という曲に合わせて、おゆうぎを披露していました。とても楽しそうに踊っていて、かわいらしく思いました、また神無月さんのものまねショーがあり、そこにいる人たちを笑顔にしていました。話しが戻りますが、おゆうぎを終えた園児とおかあさんたちが、おもちゃやお菓子など買いに来られ、たくさんの人でお店は大繁盛でした。

最後に花火大会が行なわれました。僕は大きな音や人ごみが苦手なので、テントの中に入って花火を見たのですが、TOTOの花火はレーザーショーとのコラボで花火の光とレーザーがとてもきれいな光があり、迫力があり、感動しました。花火が終わって、TOTO祭りが閉幕してから店じまいをしました。

「一丁目の元気」さんには、当作業所がいつもお世話になっており、こんな機会がないと一緒に参加することもないのでとてもいい経験ができました。



▲ 当作業所の作品です

やっと行けたよ若松へ ～三度目の正直で!!～

永松 啓子

今年度、第2回目メインストリート・プログラムは過去2回、豪雨などで行くことができずに半分あきらめていた若松に決定!!

まだ、残暑残る日にスタッフ4人で下見に行ってきました。下見では主に若戸渡船の見学と若松散策を行ないました。まず、渡船（第十八わかと丸）の船内は車椅子を固定できるスペースが2台あり、広々としていて電動車椅子などの大きな車椅子も楽に利用できました。船内に車椅子を固定できるストッパーは2台でしたが、ブレーキさえしっかり止めていけば一度に5～6台の車椅子は利用可だということも分かりました。その後は若松散策、日曜日は商店街が休日の所が多くシャッター街に・・・何かないものかと散策をするが、何も見つからずネットで調べていた「わかちく資料館」に行き洞海湾の開発と移り行く若松の歴史を知り、そこで「まち駅マップ」を頂き、次に行く場所を探し、メインストリートの成功祈願のお参りを恵比須神社でして若松散策を終了し戸畑へ戻ることにしたのですが、渡船に乗り込む際、スタッフの乗っている電動車椅子の車輪が渡場と船との段差に引っかかりちょっとビックリしてしまいました。何とか乗り込み戸畑渡場に着きました。着いてすぐ、障害のないスタッフが渡場の職員さんに当日は安全に乗り込めるよう隙間が開かないように依頼し頼んだ所、快く努力をしてくれると伝えてくれましたので安心して帰りました。



▲ 固定する様子

その後、前回と同じようにJR戸畑駅や小倉駅に電話をし、小倉駅～戸畑駅まで電車の乗り降りをスムーズにするために、JR小倉駅に行き話し合いを行い各班、時間帯を変えて電車に乗ってもらうようにしました。

日頃、渡船に乗ることの少ない人たちに、戸畑渡場から若松渡場までの、わずか往復6分間の船旅ですが、初秋の海風を感じてもらいたくて9月25日（日曜日）に実行しました。



▲ 3分間の船旅

当日の朝は少し肌寒く感じましたが、小倉駅マル

当日の朝は少し肌寒く感じましたが、小倉駅マル

テレビジョン前のJAM広場前には、参加者、ボランティアさんなどを合せて43名の人が集まってくれました。私たちの班では、体調が悪いとのことで2名の欠席がありましたが、前もって決めていた時間があり、行きの電車は最後に乗るようにしており、小倉駅では自己紹介を済ませて皆でおしゃべりをして、各班の皆さんを見送った後、切符を購入して電車に乗って戸畑駅へ。

そこから、地下を通過して渡場に(思い通りには行かないのが、この世の常)残念ながら当日は話が違い「くき丸」という渡船で少し小さく乗船しにくかったのですが、乗務員さんの手を借りてなんとか無事に若松に到着、その後すぐに話し合い、まずはお昼を食べようということになり、毎回若松から参加してくれる参加者や幼い頃に戸畑で暮らしていたというボランティアさんの案内で、下見に行った所ではなく海岸通りを歩きながら古い建築物の由来を聞きサンリブに行く途中、他の班の人たちが手動車椅子に乗っている人の階段降りや高い段差の上り下りをしている所に遭遇し、私たちの班の人にも車椅子の介助を経験してもらうことができ良かったです。サンリブのフードコートでお昼を済ませ、参加者の希望で商店街に行く予定でしたが、その前に若松市民会館にある「火野葦平資料館」で若松の生んだ偉大な作家の生涯をたどるパネル展示などをはじめ日記や絶筆原稿を観て商店街に、ウエル街という歩道にはアーケードはありませんが、所々に井戸ポンプがあり押ししても水は出ないと思っていましたが押すとなんと水が!!そこからアーケードのある商店街を通り行きと同じように「くき丸」に乗船し、あらかじめ決めていた時刻の電車に乗り、小倉駅へ着きました。その後、JAM広場前で各班の人たちと交流をし、この日のために作業所のスタッフが作ってくれた(カッパのストラップ)のくじ引きをサプライズとして行ない、皆さんにとっても喜んで頂き嬉しく思いました。

今回もケガもなく無事に行なうことができスタッフ一同、参加して下さった方々に感謝しています。ありがとうございました。

また、翌日アンケートを読んで見たところ、今日1番楽しかったところの中に「わかちく資料館」や「恵比須神社」に行って良かったと書いてくれた参加者もいて、下見に行った甲斐があり、良かったな～と感じました。次回も皆様のご参加の程、よろしく願いいたします。



▲ 小倉駅にて、解散のようす

おいでませ！山口大会

—君の一生けんめいに会いたい—

佐藤 カヨ子

10月22日～24日に山口県で開かれた「東日本大震災復興支援 第11回全国障害者スポーツ大会」に水泳の代表として出場しました。北九州市からは陸上・水泳・卓球・アーチェリー・フライングディスク・ボウリング・知的男子バレーボールの競技に選手30名、監督・コーチ等合わせて60名が参加、20日に障害者スポーツセンターで結団式の後、しろはと号と貸し切りバスの2台で出発しました。車中の選手の表情には緊張感と同時に、競技に力を出し切るぞ！という決意が漲っているようでした。秋晴れの心地よい天気の中、バスは順調に到着、山口市や防府市に分散して宿舎に入りました。公式練習日を経て、翌日が開会式、各会場に分かれていよいよ競技が始まりました。

水泳は、山口きらら博記念公園水泳プールが会場となり、新しくきれいなプールで設備も充実していて、泳ぎやすいプールでした。北九州選手団は3名と人数は少ないながら元気一杯に泳ぎ、大会新を一番若い椎葉君が出すなど、好記録の連続、私自身もここ数年のベストタイムで優勝でき、チームで4個の金メダルを獲得できました。会場は熱気に溢れ、初対面でもスポーツ選手同志、応援の人たちも含めて盛んに交流が行われていました。

今回は山口県と近いこともあり、余裕を持った日程で開会式・閉会式・公式練習なども全て参加することができました。維新百年記念陸上競技場の広さやずらりと整列した各県選手団の壮観さ・観客の声援・熱気・サポートしてくれる人の多さや優しさ等…、その場に身を置かなければ感じ取れないことがありました。今後も大会が盛んに行われ、たくさんの障害を持つ人に体験してほしいと思います。



▲ ボランティアと一緒に

最後になりましたが、強化練習を初め、大会までの日々を支えて送り出して下さった方々、影になり、日なたになって大会をサポートして下さった方々、他県の選手にも分け隔てなく応援をしていただいた山口の皆様にも心より感謝を申し上げます。

マイ・ブーム

小川 美也子

皆さんは、知っていますか？ 来年の春に障害者スポーツセンターが、移転する事を。長い間皆さんに、親しまれた春ヶ丘のスポーツセンターが、数十年経ち老朽化した為、三萩野に移転する事に成りました。私たち障害者がより楽しめ、豊かな生活を送れるようにと、現在、障害福祉課など各関係者の説明会に参加して、意見を交わしています。

ところで、今年の夏、思永中学校温水プールに当センターから5人で、見学及び説明を聞きに行きました。思永中学校温水プールは、小倉北警察署の隣にあります。2階建ての屋内プールで、駐車場も完備しており1階駐車場からエレベーターで2階に昇ります。1階出入口は、なだらかなスロープになっていて、車椅子も利用できます。関係者から話を聞くと、メインプールは、25mで7コース有ります。水深の浅い場所は1.1mだんだん深くなっていて、一番深い場所は1.4mです。利用時間は10時～20時で、片付け・着替え・退場含めて2時間以内です。必ず水泳帽子を着用の事、泳ぐコースの他、歩くコース、子供の遊ぶコースも在ります。水深50cmの幼児プールも在ります。各、時間ごとレベルに合わせ水泳教室も行われており、私達が見学している時は、子供達のレッスンが行われていました。車椅子用の更衣室も見せて頂きました。ロッカーが三つ、着替えてシャワーやプールサイドの移動がスムーズに出来るように車椅子が一台設置されています。ただ車椅子用は一室しかなく男女兼用です。その為時間差で着替えなくてはならず、そのの処は…ですが。

私は、現在アフター5に通っています。勤務帰りの人達と同じ時間帯なので、やや混雑していますが、雨の日や気温の低い日は、やはり利用者が少なく感じられます。毎日楽しく通っています。



▲ 思永中学温水プール

介助事業所GENKI からのお知らせ

介助事業所GENKIとしては、このごろとても目まぐるしくなっています。その一つの理由が、旧事業所のと昔から含めて長い間、いつもやさしく、たくましく、休日や深夜の派遣対応から、派遣の調整に至るまで多くを担って来ていた松本香世子さんが、結婚が決まり8月末日で退職されました。新しい門出に、これまでのねぎらいと共に、こらからの幸せを心からお祈りします。またこの場を借りて皆さんへのお知らせといたします。

それにあわせて、松本さんの後任として中村さんがやってきてくれました。さらに、11月末には長時間介助が必要な仲間が、市外から引っ越してくる予定もあって、今、職員も登録ヘルパーも大募集、増員中です。

はじめまして

中村 美香

7月より、介助事業所GENKIでサービス提供責任者をさせていただいております。

主人の転勤で、4月に福岡市より、戸畑区に引っ越して来ました。福岡では、重度の知的障害者通所施設を母体とする社会福祉法人の居宅事業所で常勤ヘルパーをさせて頂いておりました。

- ・自傷、他害のある自閉症の方のガイドヘルパー
- ・コミュニケーションのとり辛い方の身体介護
- ・精神の方の家事援助等コミュニケーションのとり方でたいへん勉強させて頂ける仕事でした。

介助事業所GENKIでは、新たに脊髄損傷等の身体介護で技術的に大変勉強になる仕事をさせて頂いて、緊張しつつも、学べる喜びを感じております。

そもそも、ヘルパーの仕事に興味を持ったのは、長男が先天性の心臓病で生まれ、生死をさまよい、てんかんを発症し、広汎性発達障害であること、長男を理解すること、長男を取り巻くさまざまな事柄を予測し対処したいという想いからです。一生働くなら、福祉の世界でやってみようと思いました。そんなに簡単ではないと思ってはいましたが、表現のひとつとはいえ頭突かれるは、噛み付かれるは、いろいろな事がありました。いろいろ経験したつもりでも、この世界は、あまりに奥が深く、巾も広い、次から次へと新しい事が起きて、飽きることがありません。気づきや発見も多く、年齢を反対に取っているようです。

介助事業所GENKIでは、制度面での勉強も出来るとわくわくしています。

どこでも、わたしを見かけたら、声をかけてください。

私事では、土地勘が無い上に方向音痴な為、移動に戸惑っています。また、買い物や病院など、生活全般でまだまだ北九州に慣れていません。

あちらのスーパーが安いとか、こちらに若返るお店が

あるとか、なんでも良いので朗報をお知らせください。

明るく、おっちょこちょいな私ですが、末永くよろしく

お願いします。



何十年ぶりかの社会復帰

馬渡 明子

私は、十月より派遣社員として、事務のお手伝いをさせて頂いております。
まわたりあきこ
馬渡明子と申します。

子供は男の子と女の子の二人で、下の娘が中学生になったので、何十年ぶりかの社会復帰となりました。不安もありましたが、皆さんにとっても親切にして頂き、感謝感謝の毎日です。

子供たちが小学生のころには、PTA活動に参加しており、人権教育委員会の委員長をさせて頂いた時、保護者にボランティアを募るという新しい試みをしたことがありました。同じ小学校に小児マヒのお子さんが在籍していたのですが、毎日保護者の付き添いが必要だったようで、ご両親のがんばっている姿を見て、お手伝いできたらいいな・・・と思ったのがきっかけでした。

軽く考えていたのですが、ボランティアとして保護者が授業に参加することは、プライバシーの問題なども指摘され、思ったよりも大変なことでした。それでも何とか許可がでましたが、食事介助など慣れなくて失敗も多々あったようです。

初めて介助にはいった保護者の方の時、食べさせようとした際に、お子さんの手が当たり食事がこぼれてしまったそうです。ところが、周囲の子供たちは何事もなかったかのように手に雑巾を携え、「大丈夫」と言って数名がサッと片付けてしまった。その保護者の方は大変感激していました。子供たちは、まだ2年生でした。障害のあるお子さんと共にあるということは、お互いに学ぶことが多いのだと思ったことがあります。一生懸命に生きておられる方々のお手伝いが少しでも出来ればと思います。どうぞ宜しくお願い致します。



活動報告



7月16日～10月30日

7月

- 20日 障団連 人権部会 (林)
- 24日 北九州市障害者支援
計画策定委員会 傍聴
(永松・小川・大石)
- 27日 第2回(次期)
北九州市障害者支援計画
策定委員会 (林)
- 28日 小倉北特別支援学校より見学

8月

- 6日 わっしょい百万夏まつり
～7日 (全員参加)
- 13日 お盆休み
～15日
- 19日 百万夏まつり お疲れ様会
兼歓送迎会 (全員参加)
- 24日 障団連研修会
「新障害者スポーツセンター
最終説明会」(小川・中村)
- 25日 障団連・常任委員会 (林)
- 26日 TOTO祭り「一丁目の
元気出店」手伝い
(林・その他5名)

9月

- 8日 障団連・全体会議
(林・永松)
- 11日 メイン下見&黄色いレシート
キャンペーン
(小川・西村・永松)
- 12日 差別禁止条例
～13日 ワークショップリーダー
養成講座 (林・藤下)
- 23日 ピアカウンセリング
委員会 (林)
- 25日 第2回メインストリート
プログラム
- 27日 第4回障団連研修会
(林・大石・藤下)
- 30日 障団連・街頭啓発事業
第3回実行委員会会議
(小川・永松)

10月

- 5日 第5回障団連研修会
(林その他4名)
- 10日 黄色いレシートキャンペーン
贈呈式 (林・大石・藤下)
- 12日 JIL九州ブロック電話会議
(林)
- 22日 第11回全国障害者スポーツ
～24日 大会in山口 (佐藤)
- 27日 障団連・常任委員会
- 27日 障団連・街頭啓発事業
スタッフ説明会
(小川・永松)
- 29日 障団連・街頭啓発事業
アンケート調査参加

毎月11日は

幸せの黄色いレシートキャンペーン

御寄付をいただいた皆様

2011年10月30日現在

[企業・団体] イオン戸畑ショッピングセンター・同友店会
「幸せの黄色いレシートキャンペーン」にて
ギフトカードを頂きました
《敬称略・順不同》

募金・寄付金に御協力ありがとうございます

募金や寄付金にご協力いただいています皆様に深くお礼申し上げます。

北九州自立生活センターは、任意団体として活動を始めて、皆様のお力添えをいただきつつ、今やNPO法人として事業を取り組むに至りました。この間何かと駆け足で進めてきたこともあり、未整備のため皆様へ失礼やご迷惑をおかけしていることがございます。深くお詫び申し上げ、ひとつひとつ改善に努めてまいりますので、ご容赦と引き続きのご支援をお願い申し上げます。募金箱の設置につきましても改めてお願いをして参りますので、よろしく願い申し上げます。また新規でご協力いただける方がありましたら、お手数ですがお知らせいただけるとうれしく思います。一人でも多くの方々に、「共に支えあって生きる」ということにご賛同いただけますよう重ねてお願い申し上げます。

編集後記

紅葉も色付き始め、だんだんと秋がふかまってきた今日このごろですね。

来年の4月には春が丘にある障害者スポーツセンターが三萩野に移転する予定です。詳しくは4・5・6ページをご覧ください。

当センターも新たな、職員さんも増えました。一段と活気ある事務所になりましたので皆さんも近くにお越しの際には、お立ち寄り下さい、職員・スタッフ一同、お待ちしております。

大石

会員を募集しています!

賛助会員	正会員	購読会員
年会費 5000円 (一口)	年会費 3000円	年会費 200円 (送料込)
資金面で協力を していただける方	積極的に活動に参加 していただける方	定期的に本誌をご購 読していただける方

センターの活動にご協力いただける方を募集しております。また、会費は私たちの大きな資金源の1つとなっております。ご協力の程どうぞよろしくお願いたします。
※会員の方には、この会報「GENKI」を3か月に1度お届けしています。
入会方法は、このページの末をご覧ください。

寄付のお願い

私ども特定非営利活動法人北九州自立生活センターは、障害者が自立するために色々な事業を行っております。その事業を行うため、皆様方に寄付をお願いしております。施設から地域へ出てくる障害者が少しずつ増えています。その人達の支援をするためにも資金が必要となっております。より多くの障害者が地域でありのままの暮らしが出来るように、皆様のご支援をどうぞよろしくお願いたします。

ご入会、ご寄付は、当センターに御来所していただくか、郵便振替または、銀行振込みをご利用いただければ幸いです。

■郵便振替の方は
郵便局 普通01720-1-25526

■銀行振込の方は
福岡銀行小倉支店 普通2345474
西日本シティ銀行室町支店 普通1456021

◆口座名義人はともに
特定非営利活動法人 トクビ 北九州自立生活センター キタキュウシヨウセイリフセイカクセンター



ご協力を
お願いたします